

# 愛知県の知多半島の竹藪調査と整備指針の考察

竹笹研究会

代表 解語 玄

愛知県

## はじめに

戦前には竹は生活の道具に活用され、筍は食用に栽培され、竹林はよく手入れがされていた。戦後、プラスチック製品の台頭により竹素材は使われることが激減し、安価な筍が中国、台湾から輸入されるようになり値段で対抗できなくなって筍生産が激減した。このために竹林管理が放棄されるようになった。旺盛な繁殖力を持ち、他の植物と共生が苦手な竹は、日照と養分取りとアレロパシーによって木々を枯らし、畑や住宅地でも異状繁茂をしている。本州、中国、四国、九州のほとんどの里山、公園では、日本の主要3大竹の繁茂により雑木林、住宅、作物畑などが竹侵入の被害を被っていることは、昨今のマスコミ報道でも周知の事実となってきている。

## 本研究では

全国の竹藪の竹の繁茂の現状、罹病の状況を調査し、健全な状態に回復する指針を検討することが必要である。しかし、資金的な面から不可能である。今般、タカラ・ハーモニストファンドの助成金をいただけることになったので、知多半島の5市5町の公園の竹の現状、罹病状況、回復指針を研究することとした。研究の成果は、愛知県と調査した5市5町の行政に報告し、健全な自然回復の参考としていただくことを願っている。民有地の調査も欠くべからざることであるが、これまでの経験から立ち入り調査の困難さ、健全な自然回復への提言の受け入れと実行の困難さを考慮して、まずは、公共の公園での竹の異状繁茂の調査を主にせざるを得なかった。この研究結果が行政、民有竹藪所有者、園芸業者、市民町民の方々の参考となることを願っている。

## 調査方法

知多半島の5市5町にある全ての総合公園、近隣公園、街区公園(地区公園)、運動公園、都市緑地、特殊公園を実際に踏破し調査を行った。街区公園(地区公園)、運動公園、都市緑地、特殊公園のほとんどには竹の植栽はなく、遊具や遊び場、運動場といった設備、梅、みかんといった特定の種類の木の植栽があった。総合公園と近隣公園には問題となる竹の繁茂が認められた。できる限りの知多半島全域の民有竹藪の外観からの調査も行った。南知多町に属する篠島、日間賀島の竹調査も行った。

## 調査、研究結果の考察

全ての公園の一つ一つについて解説するページ数がないので、竹の植栽の認められた公園の竹の現状、罹病状況などについて調査した結果を写真と共に説明し、その後、健全な自然回復のための竹の整備指針を述べる。この研究結果をお読みになられた方で、更なる詳細説明や整備の指導を必要とされる方への協力は惜しまない。以下、1. 知多半島の公園の竹について、各市、町の竹の植栽のある公園個々について調査、研究の結果を述べる。2. 知多半島の公園以外の竹について、民有地の竹について述べる。

## 本報告書に使用する語句の説明

「竹林」と「竹藪」または「藪」の区別：本報告書では、「竹林」とは人の手により管理、手入れされている竹の群落、「竹藪」または「藪」とは管理不足で自然なままになっている竹の群落と区別する。

日本の主要3大竹：背丈が10～25mにも及び木々を覆う大型のモウソウチク、マダケ、ハチクを指す。

竹林の種類：竹の利用目的によって、筍生産竹林、竹材生産竹林、景観竹林、防風竹林、防災竹林に区別する。

竹：「竹」は次の3つを総称して言い、タケ、ササ、バンブーの3種類の区別は次のように規定する。「タケ」とは、筍が生長した時点で稈鞘が脱落し、地下茎は外へ伸びて筍を生じ、葉の葉脈が平行脈と結合脈を有するもの。「ササ」とは、筍が生長した時点で稈鞘が残留し、地下茎は外へ伸びて筍を生じ、葉の葉脈が平行脈と結合脈を有するもの。「バンブー」とは、筍が生長した時点で稈鞘が脱落し、地下茎は外に伸びずに親竹の根元から生じ、葉脈が平行脈のもの。

## 1. 知多半島の公園の竹について

知多半島には北から南へ、順に次の5市5町がある。

東海市、大府市、知多市、東浦町、阿久比町、常滑市、半田市、武豊町、美浜町、南知多町。

右の図は愛知県全域である。

今回調査研究したのは楕円で囲まれた知多半島の5市、5町である。

下の写真で見ると、知多半島の南の方と背の部分には緑が多く、海岸近くは開発されて、緑が少ない。



愛知県には、知多半島以外に市町村合併で大きな市となった豊田市、岡崎市、新城市、北設楽郡が緑で覆われている。この緑の部分には雑木林と共に、広大な広さの竹藪が存在しており、毎年竹藪化が進んでいる。その実態の詳細な調査研究はまだ行われていないので、里山の竹藪化の系統だった解消対策が全く採られていない。広範囲な里山の森は竹に覆われて年々不健全な森へと遷移している。私の「名古屋市名東区猪高緑地の竹の拡大研究」(富士竹類植物園報告47号、2003年発行)を基準とすると、40年の間に一定範囲の森の1/4が竹に覆われてしまうから、現在広大な緑に見える愛知県の森も今手をつけないと数十年後には、里山のほとんどが竹藪になってしまう可能性が高い。早急に愛知県中の森の系統だった竹藪調査と解消対策を行うべきである。今回、とりあえず知多半島だけでも調査研究ができたことは非常に有意義である。

### なぜ竹藪化が自然環境によくないか、

竹は雑木や草との共生が苦手なため、日照を遮ったり、養分や水分を先取りしてしまったり、アレロパシーで他の植物の発芽を抑制し、竹だけは無性生殖のクローンで繁殖していく。そして、竹だけの世界を作り竹藪となる。竹藪には健全な森の生物数と比較すると1/5しか生物が生息しておらず、生物の種の多様性が極端に低くなる。種の多様性の低い森は不健全といえる。種の多様性の高い、生物のバランスの取れた健全な森の回復によって絶滅危惧種を守り、遺伝子の保存ができ、二酸化炭素の固定、酸素の増加などにより地球温暖化の防止にも役立てることができる。全ての生物により良い自然環境の地球となる。

知多半島全ての公園の竹の調査、研究結果総論として、次のことが言える。

多くの小規模な街路公園には遊具が設置され、桜などの鑑賞用の木々が植栽されて、全部と言っていいほどすべての小規模公園はよく管理されている。中大規模の公園では竹の植栽とその竹の竹藪化が起きている。大府市の大倉公園と阿久比町の於大公園の2公園以外の他の市町の中大規模公園では、竹藪化が進行している。

竹藪化が環境になぜいけないかという根本が理解されていないと放置状態になり易いし、仮にいけないと感

じていても、整備予算が組めないとか、実際に整備指導・指示する行政がどうしていいのかわからないとか、竹と  
いうものを知らないために中途半端な整備をして、反って竹藪化を助長させてしまう結果になっているのではな  
いか。もちろん、請け負う園芸業者に竹の管理の仕方の知識が薄いという懸念もあるが、注文者である行政が  
知識を持っていれば、竹を適切に扱える園芸業者の選択、発注ができるであろうし、もし、園芸業者に竹の知識  
が薄いと行政が知れば適切に業者を指導できるであろう。園芸業者も自ら竹なんかと軽んじずに竹について学  
ぶべきである。木々の整備のできる園芸業者はいくらでもあるが、竹も適切に整備できる園芸業者に会ったこと  
がない。行政が公園の整備を注文する場合、是非どの園芸業者が竹を管理できるかを業者選定の条件の一つ  
に入れていただきたいと願う。

各市町の各々の竹の植栽のある公園の竹の現状と罹病状況と健全な自然回復のための整備指針は、次のと  
おりである。

#### 東海市

##### 中ノ池公園



中ノ池公園には、左写真のように中太のモウソウチクが雑木林の中にとくさん入り込んでいる。手入れがされ  
ていないために、木がモウソウチクに覆われている。モウソウチクに病害はない。このまま竹の整備をしないと間も  
なく木々は竹に枯らされて醜い竹藪となる懸念がある。木のゾーンと竹のゾーンに区分けして、木と竹の住み分  
け整備が必要である。池の周辺には、メダケとハチクの藪がある(中写真)。透かし整備をすると竹笹の若返りと  
美観を保つことができる。(右写真)小さな広場には背丈の低いハチクの藪があり、うす暗い場所を作っていて  
危険である。皆伐整備が望まれる。公園の周辺には住宅が多く、公園美化と住民の健康増進のために竹藪整  
備のボランティアグループの育成があるのが望ましいが、不可能であるのなら園芸業者に頼まざるを得ない。

##### 大池公園



大池公園は広大である。多くの市民が散歩したり憩う場所である。園内の看板には竹の生えている丘があると  
明示されているが、手入れ整備のされた特別な竹林はない。池の周辺にはモウソウチクがまばらに入り込んで  
いる(左写真)。近くに松くい虫防止用の薬剤グリーンガードエイトを注入している赤松があるが、赤松が管理さ  
れていることから推測すると、雑木林にまばらにモウソウチクを残す手入れの手法がとられていると思われる。モ  
ウソウチクを赤松と一緒に残すことで赤松の養分が取られ赤松が衰退する。弱った赤松には松くい虫が付き易  
いと思われるので、弱った赤松が生えている周辺のモウソウチクは皆伐すべきと考える。赤松が枯れてくる原因

は、線虫のみではなく、養分、水分を先取りしてしまうモウソウチクにもある。弱った赤松には虫が付き易い。中写真のように、歩道から見ても手入れされていない竹藪となって美観を損なっている場所もある。また、公園周辺の外の道からもモウソウチクの竹藪が見られる(右写真)。道に近い数メートルは桜の木の植樹があることもあってよく整備されている。モウソウチクの拡大繁殖の特性として、水辺より乾燥した山の上へと広がることから推測して、モウソウチクの筍が毎年桜の方に出てくると思われる。桜並木の領域とモウソウチクの領域の境にコンクリートや腐り難い素材の障壁を埋め込むと長い目でみると経費削減になる。道から見えるモウソウチクの藪は透かし整備が必要である。適切に管理すると素晴らしい景観竹林となる。春は手前の桜が公園を飾り、夏は桜の緑が美しい。桜が落葉する秋から冬の間も桜の木々越しに緑のきれいな景観竹林があるという公園になる。モウソウチクを透かし伐竹する場合は、伐った稈、枝葉の置き場所を考慮しないとイケない。間違っても、池の周辺に積み置くことはしてはいけない。富の栄養が池に流れ込むからである。



丘から池へと下る場所には、このようにひどいモウソウチクの藪がある(左、中)。早急な手入れをしないと雑木が全てモウソウチクに枯らされてしまい、真っ暗な竹藪となり、市民が散歩する公共の森としては危険な場所となる可能性が非常に高い。これほどに荒廃すると、木か竹のどちらかを皆伐し雑木林か竹林かのどちらかにすべきである。ホウオウチクの固まりがあるが(右)、これはパンプーであるので被害を及ぼす拡大はしないが、パンプーは株の内側の古稈を除去する手入れをし、株の外側に生えてくる筍や若稈を伐ってはいけない。

#### 衆楽園公園



衆楽園公園には大きな大仏があり、大仏の周りが公園となっている。大仏の背後には歩道の横にオカメザサというタケが植栽されている(左)。背丈が揃えられているし、整備をする時期も適切に行われているので秋、冬も写真で見ると緑がきれいである。広葉落葉樹が公園の中に多く、秋冬は落葉して殺風景な中、オカメザサは新鮮な緑を呈している。木々に緑が無く、二酸化炭素の固定と酸素の放出が非常に少ない時、緑のタケは大活躍している。大仏の東には東海市しあわせ村があり、木々はよく手入れがされている。東海市しあわせ村の建物の周辺にもオカメザサが植栽されて通年緑を呈している(中)。

ただ、池の東の丘にはモウソウチクの竹藪があり、適切な手入れがされていない(右上)。10年も放置されれば池の東側にはうっそうとしたモウソウチクの竹藪ができてしまい、生物の種の多様性が極端に低い森となってしまう。そのとき、生物にとってはしあわせな村ではなくなってしまう。また、その近くには、雑木の中にメダケが生えている。しかし、メダケは主要3大竹と違って、比較的細く背丈の低いササであるし、地下茎を伸ばして増えて困ることはないので、適宜、伐りとっていけばよい。雑木の手入れの方が必要な場所である。池の周辺には



モウソウチクが雑木を駆逐しようと徐々に勢力域を広げているので、早めのモウソウチク整備が望まれる(右)。東海市しあわせ村では池の西はよく手入れされているが、東側の手入れが少しおろそかになっているように思える。



(左)石垣の上にオカメザサが垣根に植栽されている。手入れが適切にうまくされている。しかし、片隅にはモウソウチクが少し生えている(中)。他の木々よりも養分と水分を先取りする地下茎を伸ばしているので木々に悪い影響を与えないかを注意しながら見守る必要がある。庭園の中にはホウオウチクの植栽があつてきれいである(右)。バンブーであるホウオウチクのことをよく知った上での今後の透かし伐が必要である。そうすることで若返りが図られ、いつまでも竹のある美しい庭園を保持できる。

## 大府市

### 大府みどりの公園



大府みどりの公園は広大である。入り口を入ると事務所の裏にホテイチクとウサンチクの藪が広がっている。公園の外側から見ると(左上の写真)、堰堤近くのホテイチクとウサンチクは伐って横たえてある。ホテイチクとウサンチクの性質として水のある方に拡大繁殖してくるので、きっと毎年堰堤の方に筍が出てきて困ってしまうことになっていると思われる。伐ったホテイチクとウサンチクを藪に横たえてあるが、この処置はこの場所では決してしてはいけないことである。横たえた竹は腐り、富の栄養を川に流し込む。つまり、川にここから養分が流れ込むことになる。それによって水質が栄養過多となって下流の生物、特に植物に富の栄養を与えてしまい、植生が変わってしまう。人が気がつかずにやったことではあるが、健全であった自然を徐々に徐々に壊してしまうことになる。田んぼに水が流入すれば、稲の背丈が長くなり台風などの強風で倒れ易くなったりすることもある。伐ったホテイチクとウサンチクは取り出して、自然に影響を与えない場所での処分が望まれる。これだけの見事

なホテイチクの藪は、公共の場所にはあまりないので大切に竹林として育ててもらいたい。生えているときは稈が非常にもろいが、伐って干すと硬くなり、しなり易い性質から、釣竿や杖に使われていたことを現代の人たちに知ってもらうためにも、この公園で釣竿作りや杖作りの講座があると良いと思われる。特に、ホテイチクで作った杖は握り具合が非常に良く、老人の施設などに寄贈すると喜ばれる。

ホテイチクとウサンチクの藪の端の方では、ハチクが入り込んでいるので除伐が望ましい。



公園の真ん中にある広場の回りには、マダケとハチクの混合藪があり、本数が多いため全ての稈が細くなっている。防風竹林効果はあるが、マダケはテングス病(上中の写真)にかかっている、間もなく全てのマダケがテングス病に罹病し枯死し、ハチクにも伝染し、ハチクも枯死し汚い森となっていく。早急な手当てが必要である。マダケの罹病状況から考えると、罹病してから2、3年と思われる。罹病範囲も手が付けられないほどひどいから大至急手当てをすれば他への感染を防止できる。竹の専門家に指導を仰がないと園芸業者では手当ては無理と思われる。密集し、竹藪化したマダケが弱っているところへ近隣の竹藪からテングス病の胞子が飛来して感染したのが原因である。毎年、胞子は飛来すると思われるから、マダケもハチクも適切に手入れし、肥料を与える必要がある。



公園の境界ネットの外にはクロチクやモウソウチクが生えており(左上の写真)、枝葉の先が公園の中にしな垂れ入っていることから考えると、隣地から地下茎がすでに侵入していて、毎年筍が生えてきて困っている筈である。境界ネットの地下に地下茎侵入防御の策を取るか、隣地の所有者に竹藪整備を頼むとよい。

東の道路沿いには細いハチクの藪があり、一見道路側からは緑できれいに見えるが(上中の写真)、その藪の中は右上の写真のように無管理である。古い稈の除伐整備が必要である。施肥するともう少し太い稈となる。

#### 大倉公園



大倉公園では、入ってすぐにモウソウチク(前頁左の写真)が目につく。透かし手入れが適切になされている。若返り整備もうまくされている。十分間隔を空かせてあり、南垂れの場所であるので台風などの強風に倒されないように注意するとよい。強風や豪雪が予知できるときは、立っている稈の中ごろに竹を横に当てて稈同士を三角形に縛っておくと倒竹被害を防止でき、美しい公園が保持できる。

前頁中の写真は、ホウオウチクというバンブーの株である。バンブーは親竹のすぐ外に筍を出して若返りが図られていくという性質を知った上で、株の中の方の古稈の除伐手入れをするとよい。このホウオウチクには名札が付けてない。他の竹には名札が付けてあるのだから、このバンブーにも名札を付けるといいのではないかと思われる。もう一箇所、モウソウチクが非常に適切に管理されている場所がある(前頁右の写真)。竹と竹の間隔は筍生産竹林向けである。その目的であれば今のままでよいが、景観竹林を目指すのであれば、もう少し竹の本数を増やした方が外観が美しいし、風被害には強くなる。



ホテイチクの竹林が作ってある(左上の写真)。ウサンチクが出てくることがあるので、ホテイチクだけを残していく手入れをし、若返りを図るとききれいな竹林として保持できる。名札が下草のシャガの中に付けてある。シャガは竹と相性がよいが、あまりに繁茂しすぎないように注意したいものである。

大倉公園の中には、真ん中の写真の竹が植栽されている。これには右上の写真のようにナリヒラダケと名札が付いているが、これは間違いである。あまり竹に詳しくない人は、トウチクは稈鞘の落ちるのが少し遅くなるタケのため、さらに稈鞘が落ちるのが遅いナリヒラダケと間違えてしまうことがある。正しくは、トウチクである。節と節の間が最長80cmほどにもなる特徴のあるタケである。枝葉が自然に枝が折れて丸い固まりになったり、園芸手入れとして枝を切り詰めてわざと葉が丸い固まりとなるように育てる。別名ダイミョウチクと呼ばれる。古稈が目立つので若返り整備が必要である。



オカメザサの植栽もある。ザサと名前が付いているが、一番背の低いタケの仲間である。古くは、背丈の低いタケもササと呼んでいた名残である。オカメザサはタケに属するのであるから、筍が育った時点では、稈鞘ははがれ落ちている。1m以上に育てて、稈で籠を編むと非常に丈夫な籠ができる。刈り込み手入れは5月に行い、秋などに刈り込むと返って汚い状態となる。

#### あいち健康の森公園



あいち健康の森公園には、オカメザサの植栽があり、「生き物の森」にはまだ整備されていないモウソウチクの藪が広がっている。これから先整備されていく場所であるが、竹藪化している森が自然であるという間違った考えに基づいてそのまま放置しておくのは健全な自然回復と、生物の種の多様性を高めるためにはよくないことである。「生き物の森」として育てていくには、モウソウチクを適切に管理し、

雑木を生き生きとさせないといけない。そのまま放置することが自然なことと勘違いすると、モウソウチクはどんどん生育域を拡大し、雑木や草を枯らしていく。当然実のなる木も草もなくなるわけであるから、鳥も昆虫も来ない竹藪となる。「生き物の森」に育てるつもりが、モウソウチクを無管理で放置することで「生き物のいない森」となってしまう。

## 知多市

### 大草公園



この公園にはコの字型の堀のような細長い池がある。水中にはゴミや倒木、倒竹が落ち込んでいて水はよどみ、汚い。堀のような池には木道が造ってある。対岸のマダケは手入れがされていず、立ち枯れした稗や枯死し倒れた竹が放置してあって汚いのが見える(上の写真)。木道から寺の駐車場に上がると、マダケというササが生えているが、このササの拡大繁茂の力は弱いので適宜伐っていけば自然破壊といった大きな問題にはならない。マダケの竹藪を整備すると共に池の清掃をすると気分の清々しい公園となるであろうが、今は汚い、危険な場所である。もし、マダケを除伐した場合、この場所から伐った竹は持ち出して処分しないとけない。間違ってもこの場所に伐った竹を積み置くのはいけない。置くこと池の水質浄化のためによくない。

木道から丘を上がるとモウソウチクが生育している。早めに皆伐すれば問題はないが、今のまま放置すると10年後には周辺の木々はモウソウチクに枯らされて整備に大金と労力が必要となる。

### 旭公園

知多市では一番広大な公園である。知多市は梅で有名である。ここにも梅の植栽があるし、桜も植栽されて多くの市民が憩う公園である。よく手入れがされている。子供の遊具設備もあり、子供も多く遊ぶ。

左下の写真のように、公園の西の隣地にはマダケの竹藪があって、公園内に地下茎が入り込んでいるので竹のひこ生えが生えてくる可能性がある。地下茎を切る作業を続けるか地下に障壁を設けると良い。



園内には、オカメザサというタケが低い垣根として植栽されている。園芸業者に整備を任せているが、オカメザサの先を不適切な時期に切っているようである。上中と右の写真で見ると秋冬は葉もなく、汚いし、先が尖っていて子供が転び込むこともあって目や首を突いて危険である。オカメザサはタケである。稗は葉があって伸びているときは柔らかいので、籠編みに使われる。しかし、一旦乾燥すると硬くなる。籠を編むときは柔らかく作業し易いが、籠が完成し、稗が乾燥すると硬くなって籠として大変重宝する。公園の中のオカメザサの先を秋などに切ってしまうと、切った場所から上の写真に見るように茶色く乾燥して固くなり、まるで太い剣山とか長い釘が突

っ立っている状態となって非常に危険である。オカメザサは5月に手入れをしないといけない。タケに関する知識が不足していると公園に遊びに来る子供には危険な場所となってしまう。行政が発注する時点で、十分注意をしないといけない。知多半島の公園の中には何箇所にもオカメザサは植栽されているが、知多市の旭公園のオカメザサの手入れ方法が一番危険である。かつて低木の植え込みの枝先が適切に伐ってなかったところへ幼児が仰向けに倒れて首の後ろに枝先が刺さって死んだという事故が他所であった。細かな配慮が安全な公園を作る。注意してもらいたいと願う。オカメザサの名札が付けてあることは良いことである。



クマザサというササの植栽がある。不思議なことに上中の写真のように刈り込むといった手入れがしてないのに対して、その道を挟んで反対側にあるクマザサ(右上)は不適切な時期に刈り込んである。刈り込んだ方は、汚くなっているし、稈が突き出て、子供が転び込むと大変危険である。上記のオカメザサと同じように、早急な処置が必要である。園芸業者が知識不足で適当に手入れをしていることがわかる。また発注者の行政もこの危険な状態を放置している。紐を張って注意を喚起するなどの配慮があったらと思うのである。



モウソウチクの植栽もあるが、左上の写真のように筍生産竹林のように、稈と稈の間が十分にとってあり、先止めもなされて、地面に十分な光が当たっている場所がある。古稈ばかりで若い稈はない。筍は出たら全部採って食べてしまっているようである。筍を全部採らずに適切数残して若返りを図らないといけない。林床は、見事に掃除してあって、葉の堆積はない。赤茶けた貧栄養の地面が顕わである。このままだと、今生きている稈は間もなく立ち枯れる。落ち葉はそのまま置いておき、むしろ腐葉土を入れるとか、畳の古いのをばらばらにほぐして撒くとか、肥料を撒くとか、十分な土作りが早急に必要である。手入れをしている人は、きれいいに見える竹林で素晴らしいと誤解してのではないだろうか。知識不足の竹林である。

このような無知、無茶な竹林がある一方、右上の写真のように、稈と稈の間が景観竹林のように空けてある場所もある。ここでも1年生の稈は見当たらない。2、3年生が少しある。筍を全部採らないようにして、景観竹林の育成をしないといけない。林床に葉の堆積も十分でないし、適切な手入れがなされていない。園芸業者の無知が際立つ公園である。発注者の行政も知識を持って、発注条件を付けるとよいと思う。

#### 東浦町

公園には竹の植栽は見当たらなかった。



東浦町の丘陵は、伊吹下ろしの冷たい風が吹いてきて農作物の生育に好ましくない。この風を防ぐ防風竹林として左写真のようにメダケというササが壁のように植えられている。メダケは、2～3mの背丈に育つが、作物に重大な日陰被害を与えるほどの高さではないし、拡大繁茂はほとんどしないので、畑の畔に植えておき、冷たい風止めには適したササである。また、畑作のとき、作物のツルを巻きつけさせるのに稈が使えて便利である。

阿久比町  
於大公園



於大公園では樹木も竹も適切に手入れがされている。以前は、メダケの林は手入れがされておらず竹藪化していたが、今はきちんと透かし伐がされ、施肥もされている。竹藪になっていたために稈は細いが、これから太い稈に育つ筈が出るであろう。左上の写真の中の左側の竹林はモウソウチクで、右側の竹林はメダケである。メダケ竹林では上中の写真のように、稈は細いながらも透かし伐がなされている。右上の写真はモウソウチクの竹林で、景観竹林がうまく育てられている。施肥も十分であるし、古稈を除伐し、若い竹も生えている。



左上の写真のようにモウソウチク林は、景観竹林としての稈と稈の間隔の空け方も理想的でよい。上中の写真のように施肥(林床の茶色の粒)もされている。このような施肥の方法が竹林には良い。



きれいなモウソウチクの景観竹林では、タケノコ採り禁止の看板があり、それがある程度守られているようで、若い竹が生えている。竹林の若返りが適切にされている。このような看板を立てることが、竹林の若返りの一助になると思われる。モウソウチク竹林の縁に一箇所、左上の写真のようにメダケが生えている。何故か、何の目的かは不明である。メダケはモウソウチクの中にさらに侵入拡大繁茂の心配は無いので、このままでも構わないが、ゆくゆく

くは生気をなくしていき枯死するであろう。

この公園では、きれいに整備されたモウソウチク景観竹林の東にもモウソウチクの植栽がある(前頁中の写真)が、手入れが少し甘く、若返りがうまく行われてはいない。間引き手入れはされている。前ページ右の写真、マレットゴルフ場の所には、ハチクの竹藪がある。ここは手入れが十分にはなされていないが、土壌が肥沃でないせいもあって稈は細い。繁殖力がそれほど強くない竹なので、少し透かし伐りをすればよい。



マレットゴルフ場の遊歩道の間には、オカメザサというタケの植栽がある(左上の写真)。サツキと同じ背丈となつて一部では混じり合っている。このままにしておくと、オカメザサの方が優勢になり徐々に生息域を広げていくであろう。5、6月になったらオカメザサを短く刈り込んで勢いを弱めてはどうであろうか。できれば、サツキとオカメザサの境界を50cmほど空けるとよいのではないか。伐ったモウソウチクの稈と枝を活用して見事な垣根が作られている(右上の写真)。非常に良いことである。枝利用の垣根は、冬には花壇の花々の防風に役立っている。於大公園は、植栽されている竹の種類が大府市の大倉公園に比べて少ないが、よく手入れがされている点ではよく似ている。他の市町の公園管理者や民有竹藪所有者などの参考となると思われる。

## 常滑市

### 城山公園

この公園では、モウソウチクが雑木の中にたくさん入り込んで、城山を竹藪に変えてしまいそうな様子である。他にマダケ、メダケの繁茂もある。モウソウチクを伐って整備している人がいたが、モウソウチクの暴走的繁茂に手を焼いていた。その人の整備の仕方は、藪に入って稈を伐ってそのまま放置しているので枯れた竹が木々の間から見えて見苦しい。早く竹の整備をしないと後々整備に膨大な税金を投入せざるを得なくなる。愛知県企業庁と知多市が佐布里池で行っているように、地域住民を集めて、森や竹についての講座を開いて住民に健全な森について正確な知識と関心を持ってもらい、住民の力で城山の竹を整備できると一番良い。業者に整備注文すると、今でも相当の金額が必要である。今の荒廃の状況から想像すると、整備には3~5年かかると思われるから、毎年業者に相当の金額を払わなければならないであろう。その半額くらいで市民による竹藪整備の講座が開け、後々も地域住民が、自分たちの城山と認識するようになって手入れを続けてくれると思われる。常滑市の指導者たちが、この竹藪化している貴重な城山の森を実際に視察し、対策を講じるべきと考える。

### 松原公園



常滑市の松原公園のモウソウチクは荒廃し放題となっている。市民グループが竹藪整備をしたことがあるが、竹を知らない、竹藪整備の仕方を知らないということが明々白々の伐り方、枝葉の置き方であった。竹さえ無くなればそれで森の整備ができたという大きな勘違いがされていた。伐竹した後の他の自然に与える影響などを前もって熟慮し整備にあたらなければ、竹だけは一応伐った跡があるが反って他の自然が破壊されたという結果になる。無知な整備者はそれすら気づかないであろう。無知が反って自然を破壊する。公園の中に入って、モウソウチクの中に立って、私は背筋にぞくぞくした怖さを感じた。人一人いないシーンとした竹藪でありながら、誰かに後ろから横からじっと見つめられている感じだ。冷たい視線のようなものを感じた。見回すと、周囲は皆枯死前の老竹ばかりである。死をまじかにした老人たちの冷たい視線を感じた。そこには若い竹はなかった。市民が筍を全部掘って行ってしまったからであろう。毎年、毎年、筍を採りに来る人がいっぱいなのであろうと推測される。これだけ筍を採ってしまうと、今やっと生きている老竹もやがては枯死し、立ち枯れ状態となり森が汚くなる。竹については無管理な公園といってもよい。

## 半田市

### にごり池公園

にごり池公園には、池の周囲にオカメザサの植栽[左下の写真]がある。今のままの手入れで良い。細いマダケの藪(右下)もある。公園の中の人が潜める程の竹藪は危険である。痴漢などが潜み易い。透かし整備か皆伐が必要である。



### 雁宿公園



左上写真、モウソウチクを以前に伐って竹藪に横たえた跡がある。またモウソウチクが拡大繁茂している。今ならきちんと伐竹整備するときれいな公園となる。伐った枝、枝葉は積み置き槽を作って入れると景観によい。右上写真、オカメザサが繁茂して桜の根元にある。桜の枝葉が伸びる下の範囲にはオカメザサの侵入を止めた方が桜のためには良い。オカメザサは5月、6月にもう少し短く刈り込むと公園としては安全な場所になる。

雁宿公園の中には、モウソウチクが荒れ放題に繁茂している場所がある。暗い場所となっていて公園の中では安全ではない場所といえる。市民が安心して散歩したり、憩えるように皆伐か透かし整備をするとよい。

## 任坊山公園



この公園には、入り口を入った所(左上写真)にも、裏手の入り口の辺り(上中写真)にもオカメザサが多く植栽されている。背丈も植栽幅も目的にかなって適切である。モウソウチクが雑木林の中に入り込んでいて徐々に生育範囲を広げている場所(右上)が公園正面辺りにある。木々よりも背丈が高く、木々の根元に生えていることから、松などはモウソウチクによって徐々に養分や水分を先取りされ、日照を奪われ衰弱へと向かうであろう。放置すれば竹藪となる。どうしてもモウソウチクが公園の景観に必要なならば、住み分け整備をするとうまい。モウソウチクは不要であれば、今なら皆伐作業は容易である。ただし、適切な時期に竹を絶やす整備の方法を取らないと何度も何度もひこ生えを取らないといけない作業となり、園芸業者に税金を何度も投入しないといけなくなる。今ならモウソウチクの駆逐は楽であるから、どのような森にするのかの判断を早急に下して、目的に合った整備が必要である。

## 武豊町

### 武豊町自然公園



左写真、細いマダケが雑木林の中に混じっている。テングス病に罹って枯死し始めている。除伐するのが良い。近くにマダケの竹藪があるので侵入が懸念される。



武豊町野外活動センター(右上)、広大な公園で、テニスコート、野球場などがある。ここでは、隣地にモウソウチクが生えてはいるが、公園内への侵入は認められなかった。マダケというササが生えている。時折、透かし伐りしたり、望まない方向へ筍が出たら伐るとか周辺の地下茎を切り取ってしまうとうまい。

## 美浜町

公園内への竹の植栽はないし、公園の隣地からの竹の侵入は認められなかった。町民は公共の公園で竹を見ることはできない。ただ見ることができるのは、野間と河和の山に無管理のまま放置された民有竹藪である。

美浜町の公有地の森では、雑木の中からモウソウチクを伐り出して竹炭に焼いているグループがある。ここでは竹炭焼きといった目的伐がなされており、森の総合的整備をするのが目的ではないようである。目的伐にしても、整備をしないよりは良い。このグループの活動が広く多くの民有地所有者に知られ、広がっていくのが理想

的である。しかし、このグループが竹を伐り出している町所有の森の隣の民有竹藪所有者は、隣地の町所有の森が整備されるのを知りながら、自分の竹藪整備には全く関心がないという。素晴らしい活動の波及効果がまだ上がっていないのかも知れない。行政による竹藪化した民有地所有者への、健全な森の回復の説得とか啓発が必要ではないだろうか。

## 南知多町

### 雁渡公園



公園へのタケの植栽は認められなかった。隣地からのササの侵入があり、注意しながら見守った方が良いのではないかと懸念される公園が一箇所あった。そこは、雁渡公園である。右下の写真のように隣地に背丈が2〜3mにもなるメダケというササが繁茂していて、地下茎が公園の境の金網の下を潜り抜けて公園内に侵入している。侵入を放置しておく、ゆっくりと、徐々に公園内で生育域を広めていく。侵入したメダケを伐った跡が残っているが、公園の整備の時に稈を伐っているのであろう。

## 2. 知多半島の公園以外の竹について

南北に細長く伸びた知多半島の背の部分、中央に名古屋市緑区大高から半田まで知多半島道路、半田から知多半島の先端にある豊丘まで南知多道路が走っている。その道路38.8kmの左右両側には多くの民有の森が展開していてほとんどの森が竹に覆われている。それらはモウソウチクの竹藪に違いないと想像していたが、実際に知多半島全域の森を見て回ると予想とは違って、知多半島南部の南知多町と美浜町ではメダケが主であり、モウソウチクは従であった。またそれらの市町より北方、知多半島の中央部の常滑市、知多市、阿久比町、武豊町ではモウソウチクが主であり、次いでメダケ、メダケ、ホテイチクの順であった。その北側で名古屋市に近い大府市、東海市、及び知多半島の中央、東側にある知多半島では一番大きな市である半田市に於いては宅地が多く森が非常に少ない。その少ない森の竹はモウソウチクが主であり、次いでメダケ、メダケであった。ハチクは非常に少ない。

今回の民有地の竹調査と聞き取り調査で、なぜ知多半島の南部の町ではメダケが多いかが判明した。南部の町には漁港が昔からある。船に立てる大漁旗にも、海の祭りの大きな鯛の張りぼてにも、船に立てる祭りの竹も、網を干す竿にもメダケが使われている。モウソウチクの渡来は1736年である。それ以前から肉厚が薄く軽量であり、元も先もほとんど同じ太さのメダケが使われていたのである。そのために漁港の多い南部の町にはメダケが多いのであった。

メダケは河川や海の近くに多く生えている。水が近くにあることを示すササであるが、知多半島全域にメダケが確認された。知多半島は東、西、南が海に囲まれているので水の近くに生息するのが好きなメダケが多くあるのは当然と言える。知多半島は背骨部分の山もそれほど高くはないために、冬には三重県と滋賀県の境に在る伊吹山から常滑市に造られた中部空港セントレアに向かって伊吹下ろしが吹いてくる。また、夏には南から台風が強い風を吹きつける。その強風や冷風から作物を守るためにメダケが防風竹林として畑の畦道に植えられている所が多々見受けられた。メダケは高さが2〜3mほどで作物を日陰にしない程度でありながら風を防いでくれるのには適したササである。地下茎を伸ばしての繁殖力も低く、親ササの近くに子ササが出るので耕作地にどんどん入り込んでくるほどではないし、地下茎が入ってきてササであるので地下茎は細く、鋏で簡単に切ってしまうことができる。

南知多町には、篠島と日間賀島がある。二つの島を訪問すると、門松に使ったモウソウチクが旅館のゴミ捨て

場に捨ててあったり、太く長いマダケが網を干す横棒に使われているのが見られる。小さな島にこれほど太く長いモウソウチクやマダケが生えているのかと期待されたが、調査の結果、実際には生えていないことが分かった。旅館やホテルは、門松は知多半島の業者から買っている。太いマダケは、船に大漁旗を飾るとき用にと知多半島の美浜町河や南知多町師崎から入手している。(左下の写真)



篠島では、細いマダケが家の周囲に植えられていたり(上中)、釣竿に適しているホテイチク(右上)が所々に植えられている。また、メダケが「女竹(おんなだけ)」と呼ばれ、トウチクが「男竹(おとこだけ)」と呼ばれて植えられている。庭にスズコナリヒラを植栽している家もある。島の海岸では太公望たちが釣り糸を垂らしているが、今のようなカーボンロットの釣竿が無かった昔には、きっとホテイチクが良い釣竿として使われたのであろう。その頃は、きちんと手入れをして太いホテイチクを育てていたに違いないが、今は放置され竹藪となって稈は細い。

日間賀島では、メダケとホテイチクが所々に見られる。島が平坦であるし、強い風が吹き抜けるので太く背丈の高くなるモウソウチクやマダケは見当たらない。しかし、西港から長心寺に向かう住宅地の庭先には、ダイフクチク(バンブー)、スオウチク(バンブー)、ホウオウチク(バンブー)、ホウライチク(バンブー)とクロチク(タケ)が植木鉢や庭先に植栽されている。庭先植栽のバンブーは温暖であり、寒く強い風が密集した家々で防がれているので元気に育っている。家々の間に生息しているから生きているが、寒く強い風の場所に移植すると枯死する。日間賀島でも、竹害は見当たらない。



スオウチク



ホウライチクとホウオウチク



ダイフクチク

竹藪を適切に整備し、健全な自然を後世に残す活動の輪が知多半島の全ての地域に拡大し、愛知県全ての森や里山や公園でも竹藪を適切に整備する活動が始まるのを期待している。このような研究、調査が愛知県内の他の地域でも至急行われ、竹藪化の実態を把握し、整備が始まることが望ましい。この研究成果が、健全な自然を回復させるための一助になればと期待する。以上。

